

あいさつ

剣道連盟会長 友永 隆雄



会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

この度の広報誌を再発行するにあたり、ご挨拶をさせていただきます。

高知県剣道連盟（以下県剣連）は、剣道、居合道、杖道の連盟で構成されており、外部団体として高知県勤労者剣道連盟があります。

諸先輩の先生方の剣道理念に基づいた質の向上を図り、剣道の真髄を追究して、正しい普及発展につとめ、日本固有の伝統文化である剣道を後世に継承しなければならぬという思いで、現在の県剣連があることは、会員の皆さまもご承知の通りです。先輩の先生方の思いを考え、今回中断していた広報誌を復活・発行することにしました。

広報誌の使命として、全日本剣道

連盟（以下全剣連）からの伝達・県剣連の行事と結果報告そして剣道理念についての参考資料を掲載する等があると思います。会員の皆さまが、剣道を通して、心の持ち方、在り方について修練され、人生をより楽しく、有意義な人生を送れるよう、剣道の良い点を皆さまに紹介し「継続は力なり」の広報誌を目指したいと考えています。

平成25年度には、宿毛市でねんりんピックが、平成26年度には、全国中学校剣道大会が高知市で開催されます。県剣連としては、役員全員一致協力して、全力で大会に向け取り組み、成功したいと思っています。会員の皆さまにも色々とお力添えをお願いすることになりますが、ご理解・ご協力をお願い致します。

会員の皆さまの益々の、ご健勝をご祈念し、発行の挨拶とします。

付記

広報誌の題字「剣翔」は、会員の皆さまの剣道が飛翔されることの願いをこめて、表題とさせて戴きました。

無双直伝英信流について

剣道連盟副会長 居合道連盟会長 三谷 昭雄



室町幕府の末期、世はまさに戦国時代と称する頃、出羽の國（山形）で林崎甚助が長柄の刀を工夫して編み出したのが「居合」の始まりとされる。当時の業は刀法のみならず、組打ち（柔道）、間接技（合気道）などもあり、現在の武道全般の基とも云われている。

刀を抜いて切り合うのが剣道であり、抜かずに相手の殺気をこちらの気で押し、屈服させるのが居合道の狙いである。しかしながら相手の殺気が勝り、抜刀してきた場合は自己防衛のため、すかさず抜き付け勝ちを納める（後の先）のが居合の技である。従って、居合とは「居合わす」であり、対人関係を意味している。刀を抜かずして争いを収めるところに居合道

の究極の狙いがあり、決して相手を斬突することの修行ではない。現世において居合道は時代錯誤的な武道と思われがちだが、命懸けで自他の生命を守る心境で真剣に日本刀による修行を行うところにその価値がある。

現在、全日本剣道連盟に登録されている居合道人口は約十万人（有段者八万人）。マイナーの武道ではあるが、愛好者は徐々に増加傾向にあり、関東・関西圏では学生の増加が目立ち、本県開催の高知居合道大会にも多くの学生が参加し、大会は盛り上がり上がっている。さて、土佐は居合道発祥の地と云われ、日本一の歴史と伝統があり、先人は多くの足跡を残してくれた。我々はその事を誇りに思うと同時に、しっかり継承し底辺を広めながら次世代に繋げていく責務がある。居合道部会は所帯が小さいながらも、県下10支部、地道に活動し、最近では全日本でも上位に定着してきた。当面は、10月に開催される第50回「高知居合道大会」の盛会を目指して取り組んでいる。連盟会員はもちろん、多くの方々にお越しいただけるよう切望している。